

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.26 (2018.5.28)

平成30年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
140年企業としての誇り
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

先日「空振り三振と見逃し三振」と題した湯沢警察署の岡部署長のお話を聞く機会がありました。岡部署長は秋ノ宮出身で横手高校・山形大学を卒業後秋田県警察に採用された方で、10年ほど前にも地域課長として湯沢署にいらしたこともある方です。お話の中で最近ではDV(家庭内暴力)などの相談が増えており、昔は夫婦げんかとして片付けられていたようなケースも現在では事件として扱われる場合があるそうです。DVの扱いだけでなく常に署員に徹底しているのは、「空振りを恐れるな」ということだそうです。私たちの仕事でも、万が一に備えて事前の策を講じる「予防措置」を決定し実施することは工事を進める上で重要なプロセスです。当然結果として取り組みが無駄に終わるケースがほとんどですが、実際に問題が発生した場合には、「あーしていれば良かった・こうしていれば良かった」となってまさに「後悔先に立たず」となってしまいます。『事前の一策は事後の百策に勝る』という言葉があるように、岡部署長の言葉には空振り三振は問題としないが、見逃し三振は許さないぞという強いメッセージが込められております。また岡部署長は「悪いことほど早く報告をするように」とも言っているそうです。これも私が日々皆さんに申し上げていることですが、民間と役所の違いは有っても、「組織」を運営する上でタイムリーな報告というものは大事であるということです。

昨年秋に能代署員が知り合いの警察官の交通違反をもみ消した事件がありました。警察官が能代市の市道をパトカーで巡回中、道交法違反の疑いで車を止めたところ運転者が同僚と分かり見逃したというものでした。おそらくこの報道に接した多くの人は、私を含め「身内をかばった」と思ったのではないのでしょうか？しかし後日県議会に報告された事情は全く異なるものでした。実は違反をした警察官は以前にも違反をしており、その際に上司らが監督責任を問われ厳しく注意をされていて、「報告をするとまた自分やその上司らが怒られる」と思ってしまったということの様です。

私たちが仕事を進めていく中で「ミス」は無いに越したことはありませんが、ゼロにすることは不可能でしょう。前述の様に予防措置を実施して事前になすべきことを行っていた場合と行っていなかった場合では、幹部や上司の対応は異なるべきであり、必要以上に叱責をすることは「組織の風通し」を悪くするという結果を招いてしまいます。重要なことはヒューマンエラーを含めた偶発的事象に対し事前に徹底したアセスメントを行うことであり、問題が発生した際の的確な初動体制であると思います。その為にも素早い報告が求められるのであり、当社のモットーである「嘘をつかない・誤魔化さない・他人のせいにならない」と「明朗・愛和・喜働の職場づくり」が重要であると言えるのです。

J R東日本ビルテック様来社



5月8日、松田貞満支店長から昨年度の除雪作業に対してJ Rの安全安定輸送とお客様の安全確保に貢献することができたとして感謝状を頂きました。

ユニオン建設様来社



全と品質の確保に対する感謝状を頂きました。



第17回社内施工技術発表会



5月11日実施した発表会では、蛭川部長代理の3連覇を平良部長代理が見事に阻止してくれました。



